

岐阜県下呂市湯ヶ峰流紋岩原産地のグループ発表 - 第1報 -

村井咲月・村瀬早紀・鈴木しゅん菜・吉田真優・小森愛弓・山田康太・山本虎太郎 (南山大学人文学部人類文化学科上峯研究室)

私たちの活動

湯ヶ峰で産出する下呂石は、後期旧石器時代から石器の材料として広く利用されてきた。湯ヶ峰には下呂石の採取に由来する先史人類の活動の痕跡が残っているはずだが、原産地としての湯ヶ峰の実態は今までほとんど明らかにされていない。下呂石を取り巻く人類文化を解明するために、徹底した現地踏査と丁寧な遺物研究が求められる。私たち上峯ゼミ 2 期生は、湯ヶ峰の現地調査と下呂石製石器の研究を実施している。週末は実際に湯ヶ峰に登り、地点を記録しながら岩石サンプルや下呂石製石器を採集する。ゼミの時間や空き

時間には、採集した資料を洗って地点ごとに整理したり、石器を観察したり、調査の所見を議論している。このように私たちは、下呂石を題材として、考古学の研究手法を本格的に学んでいる。



◀ 学生セミナー室では先生の指導のもと、石器や調査所見を共有・発論したり、図化の練習をしている。図化に必要な道具は学生セミナー室で全員が使用可能だ。

△下呂御前山

201107-1地点

山頂北西の斜面。下呂石の原礫がもっとも多く分布しており、採集した石器の数も他地点を凌ぐ多さ。剥片がパズルのように繋ぎ合わさる「接合資料」が得られ、石器づくりの手順が具体的にわかった。弥生時代の遺跡か？



接合資料 ▶

接合資料
各型別の複製が
可能です



JR 下呂駅

峰一合遺跡

大林遺跡

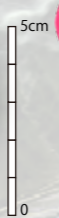
湯ヶ峰

201107-3 地点

山頂南西の斜面で、もっとも標高が高い地点。他の地点と違って下呂石は一切落ちていないが、多孔質流紋岩やそれから作られた石器（縄文時代？）が山肌を覆うほど散乱している。

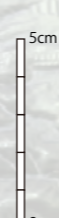


尖頭器
各型別の複製が
可能です



201108-1 地点

これまで訪れた中でもっとも南に位置する急斜面。比較的小さいサイズの下呂石製石器が散乱していた。

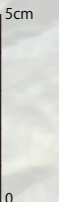


201107-2 地点

山頂北東の斜面。201107-1 地点と同じく、下呂石の原礫や下呂石製石器の分布を確認。旧石器時代の遺跡か？

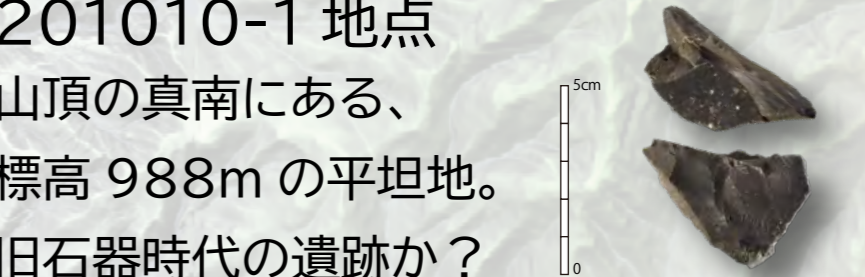


石刃
各型別の複製が
可能です



201010-1 地点

山頂の真南にある、標高 988m の平坦地。旧石器時代の遺跡か？



下呂石

マグマが急に冷えて固まってできた流紋岩の一種。硬く、割れ口が鋭いため、石器の材料として重宝された。下呂石の利用は、古くは長野県野尻湖遺跡群で見られる後期旧石器時代前半期の台形様石器に遡る。縄文時代草創期には、遠く千葉県まで運ばれた例がある。



▲湯ヶ峰を上から撮影。中央に見えるのは、崩落して露出した下呂石の露頭、通称「湯ヶ峰崩れ」。

湯ヶ峰

岐阜県下呂市、下呂温泉街の東に位置する標高 1,066m の山。冬には積雪するが、年中登山ができる。登山口までは JR 下呂駅から車で 20 分、そこから頂上まで歩いて 15 分でたどり着くことが可能。誰にでも登りやすい山である。



▲大林集落から見た湯ヶ峰



山頂での記念撮影 ▶

※撮影時に限りマスクを外しています